



2015年1月9日

各 位

会社名 マックスバリュ中部株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 芳知
 (コード番号: 8171 名証第2部)
 問合せ先 取締役兼常務執行役員管理・総合企画本部長 望月 俊二
 (TEL 052-857-0719)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2014年4月8日に公表しました2015年2月期の業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(金額の単位: 百万円)

2015年2月期通期連結業績予想数値の修正(2014年3月1日~2015年2月28日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	172,000	1,700	1,800	700	22円11銭
今回修正予想(B)	165,000	850	900	10	0円32銭
増減額(B-A)	△7,000	△850	△900	△690	—
増減率(%)	△4.1	△50.0	△50.0	△98.6	—
(ご参考) 前期通期実績 (2014年2月期)	153,218	1,607	1,763	393	12円43銭

2015年2月期通期個別業績予想数値の修正(2014年3月1日~2015年2月28日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	170,000	2,500	2,600	1,000	31円59銭
今回修正予想(B)	163,500	1,250	1,300	350	11円05銭
増減額(B-A)	△6,500	△1,250	△1,300	△650	—
増減率(%)	△3.8	△50.0	△50.0	△65.0	—
(ご参考) 前期通期実績 (2014年2月期)	152,635	1,751	1,869	477	15円08銭

2. 修正の理由

当第3四半期会計期間は、売上高の低迷から脱却し、営業赤字を計上した上期のマイナスを取り返すべく、火曜日や週末の品揃えの見直し、イオンの電子マネーWAON（ワオン）を活用した販促強化、食育企画「ちゃんごはん」などの差別化戦略に取り組みました。しかしながら、長引く個人消費の停滞や業種業態を越えた競合他社とのシェア争奪による価格競争は一層激しさを増し、引き続き厳しい経営環境となりました。

個別業績については、当第3四半期累計期間の売上高既存比98.4%と年間計画（通期公表99.0%）を下回って推移し、特に三重県南勢地区や滋賀県などでは競合店の新規出店の影響を大きく受けました。荒利益額については、売上高の不振に伴うマイナス影響に加え、荒利益率が当第3四半期累計期間で24.6%（通期公表25.0%）と公表数値より0.4ポイント下回って推移しており、営業総利益額を押し下げることとなりました。一方、販売費及び一般管理費は上期トレンドより若干の改善が図られつつあるものの、経費構造の大幅な変革には至っておらず、上期13店舗（イオンマーケット株式会社からの譲受6店舗、株式会社光洋からの譲受1店舗を含む）、下期2店舗の新規出店に伴う一時経費の影響もあり、販売費及び一般管理費の伸びが営業総利益の伸びを上回る状況を変えることができていません。

最大商戦である年末・年始についても厳しい環境は変わらず、期末までの期間、業績向上にむけて対策を講じてまいりますが、通期の営業利益・経常利益・当期純利益が当初計画を大幅に下回る見通しとなりました。

通期の連結業績につきましては、中国事業が3号店開店の遅れ等により当初計画よりも改善する見込みとなりましたが、個別業績のマイナス分をカバーするには至らない見通しです。

以上の理由により、2015年2月期通期の連結及び個別業績予想を修正いたします。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上